
精いっぱい背伸び

春日井愁

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

精いっぱい背伸び

【Nコード】

N0388F

【作者名】

春日井愁

【あらすじ】

消しゴムを落とした。ありきたりな展開で始まる僕の苦悩。成績優秀でありながら常にやる気のない千里。名前から何度も女に間違われることをはじめに、彼には悩みが多かった。なんでもない振りをしてながら心の底では生きる意味を必死に求めているところに出会った先輩、千尋。——僕は惹かれてなんか、いない。

P・I 事の始まり

軽く消しカスをはらおうと思ったただけだった。不覚にも、勢いあまって消しゴムまで落としてしまうとは思わなかった。

ポーンと飛んでいった消しゴムは、一度、二度と弾むと、自分の手の届かない前の方へ行ってしまう。

静かな教室内では声を出すことも躊躇われ、僕の口はただ、「あ」とだけ動いた。

ちなみにいうと、この授業は三年生と、僕たち二年生の合同で行われている日本史の授業。なぜ三年生と一緒にいえば、この学科独特の時間割に理由がある。

自分の進路にあわせて、必要な授業をうまくとっていくのだ。どうも大学の授業選択に似ているらしい。僕は三年生と同じになるような授業はとっていないつもりだが、唯一この授業だけ三年生と一緒にだ。

なんというか、气まずい。同じ学年同士の授業がすごく気楽なのがよく分かるのだ。

現にこう消しゴムを落とした先が三年生の席の下で、ものすごく話しかけづらい。

僕は軽く頭を搔いて、ふうとため息をついた。今、とても消しゴムが必要なのである。

しょうがない、と思って、僕はシャーペンの後ろについている小さな消しゴムを使おうと蓋をとった。……あまり使いたくないんだけど。

その時、三年生が消しゴムに気づいて取ってくれた。小動物——ウサギを思わせるような雰囲気をしたショートカットの先輩は、優しく、柔らかな微笑みを浮かべ、

「君の？」

と僕に問いかけてくる。僕がこくりと頷くと、はい、と渡してくれ

た。

ども、とだけ礼を言いい頭を軽く下げると、彼女はいえいえ、と微笑んで前を向いた。

間違ったところを消して、書き直す。

その間中、僕は何故かあの微笑みが気になっていた。かと言って一目惚れとかいうのとは違う、僕の中で妙にひっかかるものだ。

おかしい、と自分で思った。僕は自他共に認める、他人に全く興味の無い人間だ。それが自慢とか、胸を張って言えることじゃないから、彼女の顔が忘れられない理由に引き出すのはちよつと違うんだろうけど、普通の人が異性の顔を忘れられないと思うことが少しおかしいと感じるのなら、やっぱり僕の場合はもつとおかしい、ということになるはずだ。

右から左へ、もしくは左から右へ、しばらく先生の話を聞き流しながら、ボーっとしているとだんだんどうでもよくなってきた。やっぱりこれが僕らしいと、僕が思う。

「千里！ 答えてみる」

僕らしさが戻って少し満足気にしていると、不意に名前を呼ばれる。先生というものはいつもこうしてタイミングが悪い。こちらとしては空気……というか僕の気持ちを讀んでいただきたいのだ。

「なんだ、聞いてなかったのか」

黙っていると、呆れたように聞いてくるので、まあ、とだけ答えた。「成績がいいからってボーっとしない。分かったか？ ちーちゃん」その呼び方やめてください、と言おうと思ったが、面倒なので息を一息吸い込むだけでやめた。ついでに言わせてもらえば、『成績がいいから』というイヤミも否定したかったが、何より気になったが、例の先輩がハツと顔を上げていたことだ。彼女も『ちーちゃん』と呼ばれていて、成績がいいんだろうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0388f/>

精いっぱいの背伸び

2011年1月15日21時38分発行